

## 【血管炎関連2班合同班会議】

厚生労働省：難治性血管炎に関する調査研究班  
AMED：難治性血管炎診療のCQ解決のための多層的研究班

### 平成30年度 第2回 血管炎関連2班合同班会議 プログラム

期日：平成30年12月7日（金）

場所：都市センターホテル

#### 厚労省難治性血管炎に関する調査研究班

1. 各分科会会議 8：45－9：40  
各分科会長

中・小型血管炎臨床分科会	601 会議室
大型血管炎臨床分科会	603 会議室
国際協力分科会	604 会議室
臨床病理分科会	608 会議室
横断協力分科会	609 会議室

※小児血管炎の会議は昼食時に別途開催します。小児血管炎の先生も担当の分科会にご参加ください。
2. 開会の辞 9：45－9：48

研究代表者 針谷正祥（東京女子医科大学）
3. 基調講演 9：48－10：00

厚生労働省 健康局難病対策課
4. 新研究分担者・協力者の紹介 10：00－10：03
5. 今年度の本研究班全体の活動報告 10：03－10：15

研究代表者 針谷正祥（東京女子医科大学）
6. 今年度の研究活動報告
- 6-1 中小型血管炎臨床分科会 司会 要 伸也 10：15－11：17（1題6分）

6-1.	中小型血管炎臨床分科会	要 伸也（2分）
6-1-1.	MPA/GPA ワーキンググループ	本間 栄
6-1-2.	EGPA ワーキンググループ	天野宏一
6-1-3.	PAN ワーキンググループ	要 伸也
6-1-4.	MRA ワーキンググループ	田村直人
6-1-5.	APS ワーキンググループ	渥美達也
6-1-6.	PAN 臨床調査個人票解析結果	南木敏宏
6-1-7.	MRA 臨床調査個人票解析結果	田村直人
6-1-8.	MPA・GPA 臨床調査個人票解析結果	長坂憲治
6-1-9.	AAV の QoL 解析	勝又康弘
6-1-10.	AAV の医療経済学的研究	田中榮一
- 6-2. 大型血管炎臨床分科会 司会 中岡良和 11：17－11：49（1題6分）

6-2.	大型血管炎臨床分科会	中岡良和（2分）
6-2-1.	大型血管炎前向きコホート、高安動脈炎後向きコホート研究	内田治仁
6-2-2.	巨細胞性動脈炎後向きコホート研究	杉原毅彦
6-2-3.	高安動脈炎臨床調査個人票解析結果	吉藤元
6-2-4.	バージャー病臨床調査個人票解析結果	渡部芳子
6-2-5.	大型血管炎全国疫学調査	根田直子・針谷正祥
- 6-3. 小児血管炎研究 司会 高橋 啓 11：49－12：13（1題6分）

- |        |            |       |
|--------|------------|-------|
| 6-3-1. | 高安動脈炎      | 宮前多佳子 |
| 6-3-2. | 結節性多発動脈炎   | 中野直子  |
| 6-3-3. | ANCA 関連血管炎 | 神田祥一郎 |
| 6-3-4. | 川崎病        | 鮎沢 衛  |

～ お 昼 休 憩 ～

12 : 13—13 : 15

※昼食時に 604 会議室にて「血管炎研究戦略会議」(顧問・研究代表者・各分科会長)を開催いたします。

※小児血管炎の先生方は、609 会議室にお集まりください。

- |        |                              |             |                 |
|--------|------------------------------|-------------|-----------------|
| 6-4.   | 国際協力分科会                      | 司会 藤元昭一     | 13 : 15—13 : 45 |
| 6-4-1. | RITZAREM と PEXIVAS           | 猪原登志子 (9 分) |                 |
| 6-4-2. | DCVAS                        | 田村直人 (5 分)  |                 |
| 6-4-3. | V-PREG                       | 河野 肇 (5 分)  |                 |
| 6-4-4. | PAN 国際疫学研究                   | 古田俊介 (4 分)  |                 |
| 6-4-5. | Pulmonary Limited Vasculitis | 本間 栄 (7 分)  |                 |
| 6-5.   | 臨床病理分科会                      | 司会 石津明洋     | 13 : 45—14 : 04 |
| 6-5-1. | 病理診断コンサルテーションシステム            | 石津明洋 (5 分)  |                 |
| 6-5-2. | GCA の大型血管病変                  | 菅野祐幸 (7 分)  |                 |
| 6-5-3. | AAV の上気道生検組織の病理学的特徴          | 宮崎龍彦 (7 分)  |                 |
| 6-6.   | 横断協力分科会                      | 司会 高崎芳成     | 14 : 04—14 : 18 |
| 6-6-1. | 血管炎の啓発活動 (公開講座、関連学会、HP)      | 高崎芳成 (7 分)  |                 |
| 6-6-2. | CPG の利用度に関する調査               | 藤井隆夫 (7 分)  |                 |

## 難治性血管炎診療の CQ 解決のための多層的研究班

- |  |                                 |
|--|---------------------------------|
| 1 基調講演                                 | 14 : 30－14 : 42<br>AMED : 戦略推進部 |
| 2 研究班全体の活動報告                           | 14 : 42－14 : 52<br>研究開発代表者 針谷正祥 |
| 3 T2T に基づく治療戦略の構築研究                    | 14 : 52－15 : 06                 |
| 3-1. MPA および GPA の寛解基準の策定              | 土橋浩章                            |
| 3-2. 大型血管炎の寛解基準の策定                     | 中岡良和                            |
| 4 難病プラットフォームを利用した治療エビデンスの構築研究          | 15 : 06－15 : 41                 |
| 4-1. 難病プラットフォームを利用した血管炎レジストリ構築         | 針谷正祥                            |
| 4-2. MPA・GPA レジストリ研究                   | 長坂憲治                            |
| 4-3. EGPA のレジストリ研究                     | 天野宏一                            |
| 4-4. 大型血管炎のレジストリ研究                     | 内田治仁                            |
| 4-5. MPA・GPA の介入研究                     | 長坂憲治                            |
| 5 血管炎の診断・活動性マーカーの確立研究                  | 15 : 41－16 : 30                 |
| 5-1. MPA、GPA におけるバイオマーカー               | 長谷川均                            |
| 5-2. 好中球細胞外トラップ (NETs) 分解阻害活性を持つ ANETA | 石津明洋                            |
| 5-3. 皮膚血管炎の診断・疾患活動性判定に有用な自己抗体とバイオマーカー  | 川上民裕                            |
| 5-4. 異なる ANCA 測定法の特性比較とバイオマーカーとしての意義   | 勝又康弘                            |
| 5-5. ANCA 関連血管炎の臨床経過と遺伝子多型との関連解析       | 土屋尚之                            |
| 5-6. 小児結節性多発動脈炎と CECR1 ゲノム変異           | 中野直子                            |
| 6) 閉会の辞                                | 16 : 30－16 : 37<br>研究開発代表者 針谷正祥 |